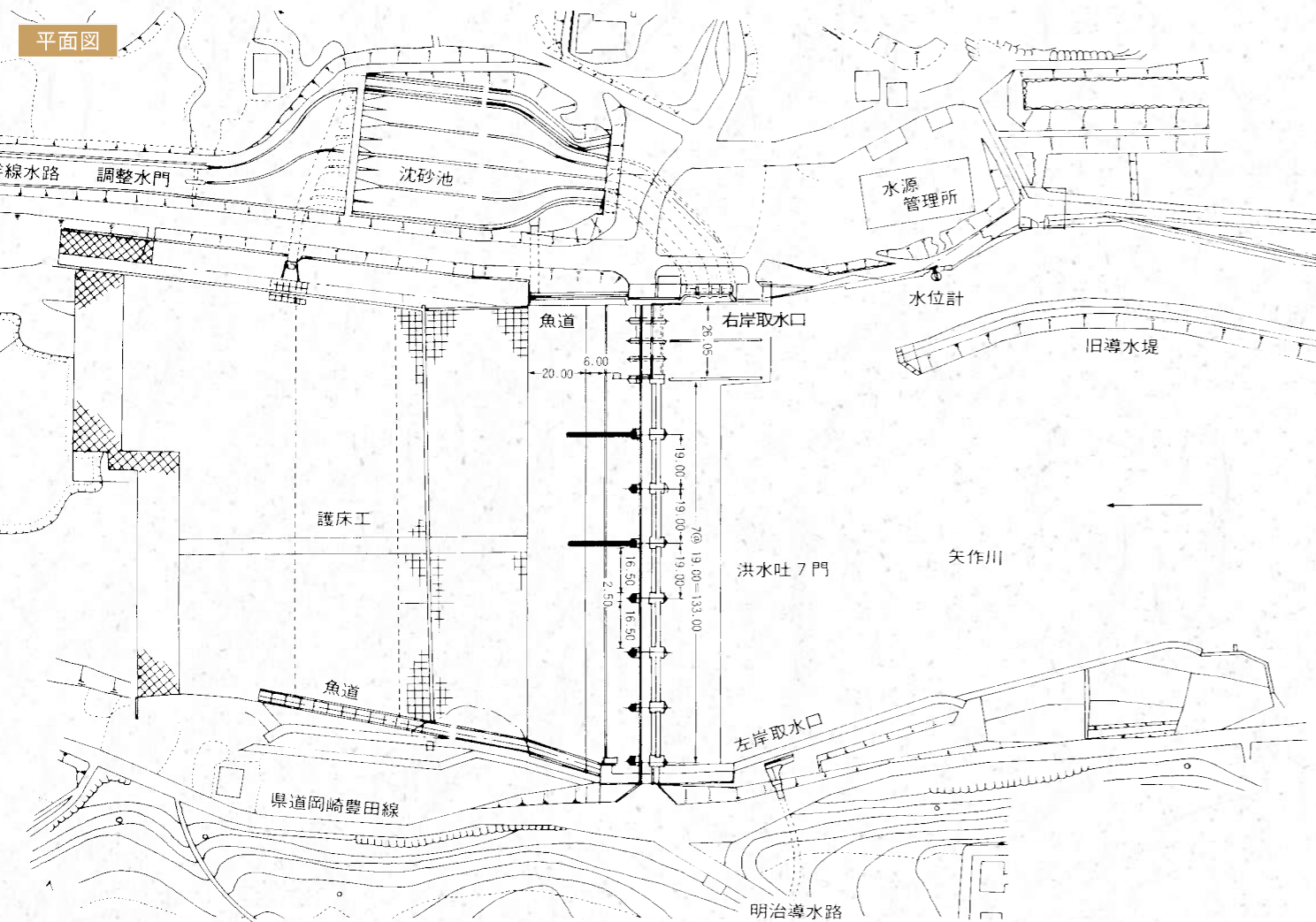


◇ 明治用水頭首工

初代頭首工は、明治13年（1880）に粗朶を敷いて木杭を打ち、割石と礫を積み上げ、河川内に約2kmの導水堤を設けて取水していたが、洪水のたび破損した。二代目は人造石を利用し、明治34年に初代頭首工から約1.8km下流に設けられた。人造石は、碧南市の服部長七が発明した技術で、真砂土に石灰・砂利を特殊な配合で混ぜたうえ、わずかな水を加え、木片で打ち固めたもので、通称三和土ともいわれた。

さらに、摩耗を防ぐために表面を花崗岩が被っているため、100年以上たった今も現存している。

現在は三代目の頭首工であり、国営事業で昭和25年着手し、昭和33年に工事費6億400万円をかけて完成した。その後、矢作川の河底低下や洪水その他の諸条件の変化に対応するため、昭和53年から昭和59年に工事費約17億5千万円で国営造成土地改良施設整備事業により補修された。



◇ 施設の概要

型式	フローティングタイプ
堤長	L = 167.3m
洪水吐	経間16.5m×扉高2.8m×7門（ローラーゲート） L = 133.0m エプロン長35.5m、護床工長99.2m（異形ブロック）
土砂吐	経間5.0m×扉高5.3m×4門（ローラーゲート）、 L = 26.05m エプロン長35.5m、護床工長125.0m（異形ブロック）
その他	（魚道他）L = 8.25m
堰上高	（取水位）E.L. 30.10m



水源管理所 遠方監視制御施設

◇ 幹線水路及び小幹流水路

幹線水路は井筋と呼ばれ、明治本流・東井筋・中井筋・西井筋・鹿乗井筋に大別される。

各幹線水路より分水する小幹流水路と排水路は、表のとおりである。

（単位：m）

地区名	幹線水路 延長	小幹流水路		水路 総延長	左のうち 管水路延長	概要
		本数（線）	延長			
明治本流	11,534.0	29	48,940.7	60,474.7	53,519.5	工水と共用
	0.0	8	8,358.1	8,358.1		
東井筋	11,421.0	24	48,174.9	59,595.9	53,175.6	
	0.0	2	5,403.0	5,403.0		
中井筋	8,420.7	44	64,835.5	73,256.2	64,116.7	工水と共用
	8,848.0	15	21,975.0	30,823.0		
西井筋	14,349.0	28	34,749.4	49,098.4	40,045.4	
	0.0	2	4,947.7	4,947.7		
鹿乗井筋	11,570.0	34	37,629.0	49,199.0	23,152.2	
	17,461.0	39	36,053.0	53,514.0		
小計	57,294.7	159	234,329.5	291,624.2	234,009.4	上段 用水路 下段 用排水路
	26,309.0	66	76,736.8	103,045.8		
合計	83,603.7	225	311,066.3	394,670.0	234,009.4	



明治用水会館 中央管理所